

硬変などの低アルブミン血症による Muehrcke's nail^{ミユルケ}、貧血、強皮症、糖尿病などの全身性疾患や砒素などの中毒、白癬や爪甲剥離などによっても白色となる。

b. 爪の形態の異常 abnormal formations of nails

1. 時計皿爪^{つめ} nail clubbing ★

ばち状指 (clubbed finger)、ヒポクラテス爪 (hippocratic nail) とも呼ばれる。爪甲が全体的に大きくなって時計ガラス状に丸く隆起し、指趾末節が太鼓ばちのように肥大する (図 19.21)。指の末端の軟部組織にムチンが沈着するために生じる。慢性の心肺疾患 (肺気腫、肺癌、気管支拡張症、先天性心疾患)、甲状腺機能亢進症、炎症性腸疾患などで認められる。肥厚性皮膚骨膜炎 (18章 p.343 参照) の一症状として家族性に出現することもある。

2. 匙状爪^{さじじょうづめ} spoon nail ★

爪甲がスプーン状に陥凹し、爪甲自体も薄くなるものである (図 19.22)。手の爪に多い。乳幼児では生理的にみられる。指先に力を掛ける仕事をしている健常人にもみられる。鉄欠乏性貧血や甲状腺疾患で生じるほか、扁平苔癬、乾癬、真菌感染、外傷、化学物質などでもみられることがある。

3. 爪甲剥離症 onycholysis

爪甲が末梢側から剥離してくる状態をいい、剥離をきたすが脱落に至ることはない。爪カンジダ症などの感染症、外傷や慢性的刺激、マニキュア、洗剤など爪甲部皮膚の炎症によるもの、甲状腺機能亢進症や末梢循環障害、薬剤などの全身的な原因によるものが存在する。



図 19.19 緑色の爪 (green nail syndrome)



図 19.20 白色の爪 (leukonychia)



図 19.21 時計皿爪 (nail clubbing)
爪甲全体が時計ガラス状に丸く隆起し、指末節が太鼓ばち状に肥大する。